

平成24年度

登録左官基幹技能者認定試験問題解答 (60分)

北陸ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題 (四肢択一法)

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて10頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
 - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
 - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
 - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題 1 これからの建設産業に期待される展開に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設産業は、日本独自の文化により成り立っていることから、従来の建設業の中心的な活動領域を超えて、国際展開することはリスクが多くマイナスである。
2. 環境の分野は、今後の成長が見込まれ活動領域の拡大が期待されている。
3. 維持管理の分野は、公共施設の維持・修繕や建物のリフォーム・リニューアル等のニーズが高まっており、今後さらなる強化が重要である。
4. 建設産業は、観光・福祉・農業・林業等の異業種の連携や新分野展開による複合化および総合産業化が期待されている。

問題 2 登録基幹技能者の内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 基幹技能者制度は、平成 9 年から民間の資格制度として整備が開始された。
2. 基幹技能者制度における認定講習会等は、平成 20 年 4 月 1 日建設業法施行規則改正後に大臣登録を受けた機関が実施する。
3. 登録基幹技能者講習の修了者で登録基幹技能者に認定されたものは、経営事項審査において加点評価（3 点）される。
4. 基幹技能者は、生産性の向上を図るとともに、品質、コスト、安全面で質の高い施工を確保するために、工事現場事務所内において施工管理をするものことである。

問題 3 建設現場における生産体制に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設工事現場においては、工学上の知識・経験を基に施工計画の作成・施工管理を行う技術者と、直接施工に従事する技能労働者が生産活動を担っている。
2. 現場における直接施工に従事する技能労働者は、1 級・2 級・3 級と分類した職階で分けることができる。
3. 中級技能者は、業種に対応した資格を有し、上司の指導に基づき部下を指示し、自らも技能を発揮し、安全に直接的施工にあたるものである。
4. 上級技能者（職長クラス）は、業種に対応した資格を有し、優れた直接的施工能力を持ち、担当工事現場の責任者として工程・施工・安全等の管理と作業の指揮を行う、基幹技能者になり得るものである。

問題4 登録基幹技能者に求められる能力に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 施工技術および施工管理に係る基本的知識と優れた技能を有し、かつ、リーダー役として、部下を直接指揮監督して、品質・コスト・安全面での質の高い施工を実現できる。
2. 施工技術に係る基本的な知識を有し、工事の各作業工程を通じて的確に施工管理を行うことができる。
3. 安全管理に係る基本的な知識を有し、工事写真の整理、設計図書に示された仕様書に基づく現場確認、施工要領書に基づく適切な作業等の一連の安全管理活動ができる。
4. 品質管理に係る基本的な知識を有し、工事工程表に基づき工程の進捗管理を行うことができる。

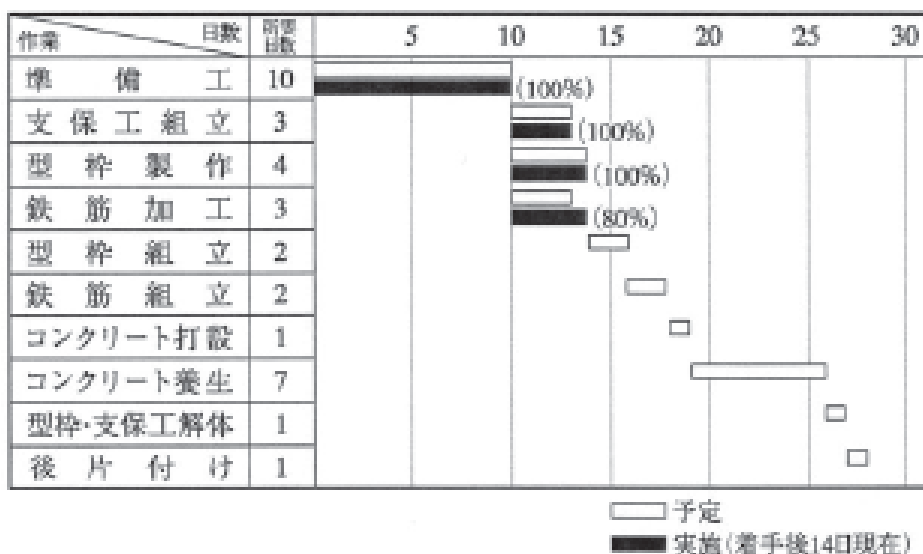
問題5 OJTにおける指導・教育の基本認識に関して、最も不適当なものはどれか。

1. OJTでは、現場での仕事を最優先し、空いた時間や暇を見て部下の指導に当たらなければならない。
2. OJTは、上司の能力レベルから目標を定めるのではなく、部下の能力レベルに合わせた目標を立てることが大切である。
3. OJTの実施が、業績低下の言い訳になってはならない。
4. OJTは、組織風土の枠内での能力開発になりがちであり、この点に配慮して部下が組織外の実態、考え方などに触れて視野を拡大することが重要である。

問題6 OJTの指導方法に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 教える、やってみせる、やらせてみる、修正する、ということを繰り返すことが大切である。
2. 基幹技能者が、模範を示してやってみせて見習わせることが効果的である。
3. 経験は、ともすると人間の成長に逆効果となり、成長を阻害するものである。
4. 指導・育成の基本は、部下が進んで自己啓発に励むように動機づけすることである。

問題7 次の工程表において、最も不適当なものはどれか。



1. この工程表は、バーチャート式工程表である。
2. 現在の工事の進捗状況は、鉄筋加工が遅れている。
3. 準備工の後続作業は、支保工組立、型枠製作、鉄筋加工の3つである。
4. 実際のコンクリート養生に必要な所要日数は、9日間である。

問題8 建設業法上違反となるおそれがある事例に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 元請負人が、自らの予算額のみを基準として、下請負人との協議を行うことなく、下請負人による見積額を大幅に下回る額で下請契約を締結した場合。
2. 元請負人が、契約後に、取り決めた代金を下請負人と協議の上、減額した場合。
3. 元請負人が、契約を締結しない場合には今後の取引において不利な取扱いをする可能性がある旨を示唆して、下請負人との従来取引価格を大幅に下回る額で、下請契約を締結した場合。
4. 元請負人が、下請代金の増額に応じることなく、下請負人に対し追加工事を施工させた場合。

問題 9 建設工事標準下請契約約款において、設計図書で定めるところにより、元請負人の監督員が権限を有する事項に関して、**最も不適当なものはどれか。**

1. 契約の履行についての下請負人または下請負人の現場代理人に対する指示、承諾または協議に関する事項。
2. 設計図書に基づく工事の施工のための詳細図等の作成および交付または下請負人が作成したこれらの図書の承諾に関する事項。
3. 設計図書に基づく工程の管理、立会い、工事の施工の状況の検査または工事材料の試験もしくは検査に関する事項。
4. 元請負人は、監督員を定めたときは、口頭または電子メールにてその氏名を下請負人に通知する。

問題 10 ブレインストーミング(BS)の手法を用いて行う場合に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. BS の効果は、グループ内で自由に発言できる楽しさがあり、より自由かつ活発に意見が出ることである。
2. BS の効果は、グループ内でメンバー相互に敵対心が発生し、多くの偏ったアイデアを得ることができることである。
3. BS の効果は、アイデアや意見に関する連鎖反応が、グループ全体の盛り上がりを生み出すことにつながっていることである。
4. BS の効果は、メンバー全員がゲーム感覚で取り組むことが可能であり、誰でもが楽しみながら参加できることである。

問題 11 塗り壁の故障の組み合わせに関して、**最も不適当なものはどれか。**

1. 強度不足 — はく離・損傷 — 調合を替える。
2. 細かい砂 — 網状ひび割れ — 粗めの砂を混ぜる。
3. ドカ付け — ひび割れ — つけ送りを行う。
4. 上塗りの富調合 — はく離・ひび割れ — 上塗り材料をより富調合とする。

問題 12 塗り壁の故障の組み合わせに関して、**最も不適当なものはどれか。**

1. 下地の吸水小 — はく離・ひび割れ — 吸水の適正化をはかる。
2. 目地処理不足 — 付着不良 — 目地処理を充分行う。
3. エフロレッセンス — しみ・はく離 — 仕上げ材料を塗り重ねる。
4. 風化したセメント — 硬化不良 — セメントを取り替える。

問題 1 3 左官材料のひび割れ発生を低減するせっこうボード張り工法に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 入隅は、木下地で補強し、出隅は、紙が巻いてある面をL型コーナー部に取り付ける。
2. ボードの重ね張りをを行う場合、上張りとは下張りのジョイントが同じ位置になるようにする。
3. 開口部の出隅には、継ぎ目を設けないように一枚のボードを切り掻いて割り付ける。
4. 開口部回りは、メッシュ等を張る。

問題 1 4 外壁の雨掛かりや乾燥によるすき間などを低減するための配慮に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 開口部に霧除け庇を設けることは、雨仕舞いの弱点となりがちな開口部廻りの保護のほか、雨、雪、夏の日差しから外壁や開口部を守る上で重要である。
2. 基礎を高くすることは、雨掛りや地面からの跳ね返りを軽減する上で有効である。
3. 雨の跳ね返りを軽減するため建物の外周を砂利敷きとする。
4. ちりじゃくりは、塗り壁と接する額縁、回り縁、畳寄せ、柱などに設けるジョイント目地のことである。

問題 1 5 住宅瑕疵担保責任保険 設計施工基準の外壁の防水に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 防水紙の重ね合わせは、縦、横とも 50mm 以上とする。
2. 外壁開口部の周囲は、防水テープを用い防水紙を密着させることとする。
3. 通気構法の外壁に用いる防水紙は、JIS A 6111（透湿防水シート）に適合する透湿防水シートまたはこれと同等以上の透湿性能及び防水性能を有するものとする。
4. 直張りの防水紙は、JIS A 6005（アスファルトルーフィングフェルト）に適合するアスファルトフェルト 430 またはこれと同等以上の防水性能を有するもの（透湿防水シートを除く）とする。

問題 16 JISA 6909（建築用仕上塗材）の仕上塗材の種類および呼び名の記述に関して、**最も不適当なものはどれか。**

1. 外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材 — 外装薄塗材E
2. 内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材W
3. 内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材C
4. 内装せっこう系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材G

問題 17 左官工事に要求される品質管理に関して、**最も不適当なものはどれか。**

1. 必要な強度と表面は硬度が高いことが要求される。
2. 仕上面が平坦であること（真壁についていえば、ちりがそろっていること）。
3. 仕上面の状態（色調平滑度または粗面度）が全壁面に関して一様であること。
4. 設計上要求される耐火、防水、遮音、吸音、断熱、湿温調節などの性能を備えていること。

問題 18 コンクリート表面の処理方法の組み合わせに関して、**最も不適当なものはどれか。**

1. サンダー掛け — 施工のバラつきが少ない。
2. 高圧水洗浄 — 必要な粗さを設定できないが、作業者によるバラつきが少なく、施工管理が比較的容易、下階への水対策を検討する必要がある。
3. ブラシ掛け — 作業は簡易だが、施工の管理が曖昧となりやすく水洗いを併用する。
4. 専用シートによる凹凸処理 — 専用シートの廃材が発生するため、その処理対策を講じておく必要がある。

問題 19 建設工事の施工管理とその目的に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設工事は、施工のための計画を立て、施工途中、計画通りの工程で工事を進められているかどうかを確認する必要がある。
2. 建設工事は、要求される品質や形状のものが、施工されているかどうかを調べる必要がある。
3. 施工途中に計画工程より、遅れていることが発見された場合は原因を追究し、今後の工事に役立てることが必要である。
4. 施工計画より粗悪な品質のものや、要求されている形状より、はずれたものができていることが発見されたならば、なるべく早く、その原因を追究して改善をはかることが必要である。

問題 20 施工計画のための事前調査に関して、最も不適当なものはどれか。

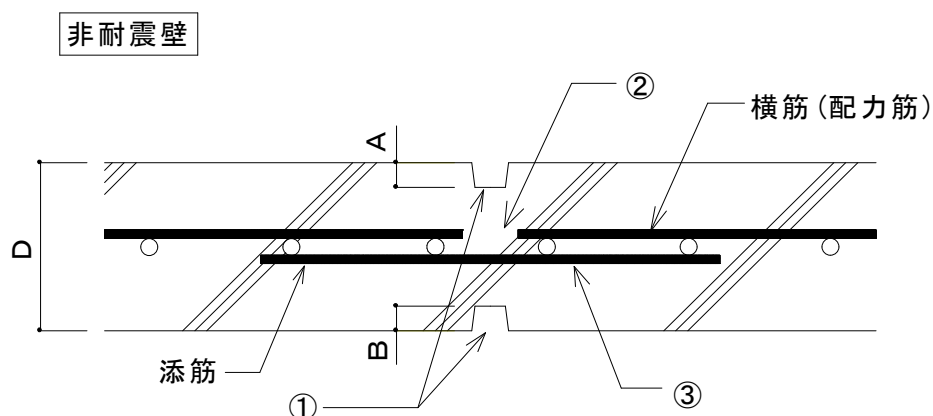
1. 建設工事は指定する構造物を施工するという受注産業であり、一つ一つがすべて新しい仕事であって、その都度、その工事に適した施工法を選定しなければならない。
2. 建設工事は自然を相手に取り組むものであるから、現場の自然現象及び立地条件などを事前に調査する必要がある。
3. 施工計画のための、事前調査を十分に把握することが、工事価格の見積もりを適正に導くことになる。
4. 現場条件の事前調査は、工事の規模により異なりますが、複数の人が調査することにより、個人的な視点の片寄りが発生し、悪い結果を招くことがある。

問題 21 建設副産物対策の実務に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 産業廃棄物の処理は、マニフェストを交付して、建設副産物の追跡管理を的確に行わなければならない。
2. マニフェストについては業務終了後、5年間の保存が義務づけられている。
3. マニフェストの交付者は、交付日から90日以内に受託者からマニフェストの写しが送付されない場合は、廃棄物の処分の状況等を把握して、関係都道府県知事に報告しなければならない。
4. 産業廃棄物の適正な処理は、運搬や処分をする、資格のある許可業者に責任がある。

問題 2 2 下図のような、非耐震壁のコンクリートのひび割れ対策に関して、最も不適当なものはどれか。

1. ①の部分に、取り付ける伸縮目地は、 $(A+B) / D \geq 10 \sim 20\%$ 以上の断面欠損寸法を確保する必要がある。
2. ②のように、伸縮目地を取り付ける部分の横筋（配力筋）を切断すれば、より効果的である。
3. ③のように、横筋（配力筋）を切断した場合は、添筋等で配筋の乱れを防ぐことが、より望ましい。
4. 非耐力壁では、3 m以内に伸縮目地を配置することが望ましい。



問題 2 3 労働安全に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 労働保護法規としては、明治 44 年に工場法、昭和 22 年に労働基準法、昭和は 47 年に労働基準が制定された。
2. 近年の建設業における死亡者数は、全産業の 35%前後であり、他産業に比べて高い割合を占めている。
3. 企業が社会的に存続するためには、(1)企業の利益、(2)企業の社会的責任、(3)従業員の幸福、(4)従業員の忠誠心 の四要件を同時に満たすことが必要である。
4. 全国安全週間の第 1 回目は、戦前の昭和 3 年に実施され、戦時中も中断されることなく、現在に至るまで連綿として続けられている。

問題 2 4 安全衛生活動の進め方に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 労働安全法によれば常時 50 人以上の規模の建築工事現場には、安全管理者、衛生管理者、産業医を選任する必要がある。
2. 安全衛生活動として、事業者は従業員がミスを起こさないように指導・監督が必要であるが、特別に安全衛生に関する教育は必要としない。
3. 安全衛生活動として、安全活動施工サイクル活動、指差し呼称活動、危険予知活動等が知られている。
4. 安全衛生活動として、従業員 1 人 1 人が「危ないことは危ない」と自分のこととして感じる必要がある。

問題 2 5 労働災害に関する法令に基づく報告に対して、最も不適当なものはどれか。

1. 事故報告書の提出部数はどんな大きな事故の場合でも 1 部である。
2. 報告書には、(1)事故報告書 (様式 22 号)、(2)労働者死傷病報告(様式 23 号)、(3)労働者死傷病報告 (様式 24 号) の 3 種類の様式が用意されている。
3. 事故報告書は、事業場の火災、爆発、倒壊、クレーンやリフトなどの事故が発生した場合に事故発生後遅滞なく作成し、その提出先は所轄労働基準監督署である。
4. 事故報告書は事業者が提出する。